

# 例会報告

第2795回例会報告議事録

ロータリーソング「我らの生業」

日時 令和7年8月19日(火曜日)

ゲスト：国際ロータリー第2790地区

場所 ハート柏迎賓館

ガバナー 時田清次様

時間 12:15点鐘

国際ロータリー第2790地区 第11グループ

ガバナー補佐 金本元章様

国際ロータリー第2790地区 第11グループ

ガバナー補佐幹事 増谷信一様

ビジター：なし

S.A.A.：小野会員

## 会長挨拶

柳田会長



本日は、国際ロータリー第2790地区ガバナーの時田清次様、第2790地区 第11グループ ガバナー補佐の金本元章様、ガバナー補佐幹事の増谷信一様、お越しいただきまして誠にありがとうございます。

先ほど11時から懇談会もさせていただきまして、非常に濃い内容の話ができたかなと思っております。

今回、皆様、夏休み明けかなというところで、お盆でお墓参りに行かれたとか、ご旅行に行かれたとか、またはお仕事をずっとやっていらしたとか、いろいろいらっしゃると思うのですが、私の会社的には1週間お休みをさせていただきました。私は仕事もちょっとあつて出たり入ったりはしていたのですが、特に何もすることなく普通に時間が過ぎていきました。今回のお盆休みをきっかけに何もなかったという贅沢というものを実感した感はちょっとあります。

会社は水曜が定休日なのですが、水曜も仕事をしたりして11年間ずっとやってきたので、今回の休みに関しては何もしないという贅沢をすごく感じて、新たな発掘ができたかなと思って、たまには休んでみようかなという気持ちになってきました。

自分をいじめすぎるのも良くないかと、自分も56歳になりましたので、ちょっと労ってあげなきゃいけないかなと感じました。

本日、時田ガバナーの卓話の後に意見交換会を行います。積極的なご参加をよろしく願っています。

## 幹事報告

梶幹事



・訃報

松戸東RC パストガバナー 石井亮太郎様

お通夜 8月21日(木)

告別式 8月22日(金)

詳細は事務局の方でご確認ください。

26名(出席免除者含む)出席(全員で33名) 出席率78.78%  
業務による欠席：川村会員、古谷野会員、谷川会員、寺井会員、前田会員、  
山本会員、湯下会員  
ZOOMによる出席：なし

## 卓話

国際ロータリー第2790地区 ガバナー 時田清次様



改めまして、市原中央ロータリークラブ所属の、今年度ガバナーの時田清次と申します。よろしくお願いいたします。

先ほど、会長幹事、会長幹事エレクトの皆様と懇談会で和気藹々と話しをさせていただきました。

60周年という伝統あるクラブということで、守らなければならない事のひとつは会員増強なのですが、我孫子RCに適した人であることを最優先にしているという所が素晴らしいと感じました。その伝統を受け継いでいただきたいということと、そういう仲間達から団結力がある、というお話を伺いました。60周年を機会に更に発展して行ってほしいと思います。

上村さんと久しぶりにお会いしたのですが、上村さんと同期が鶴沢さんと寒郡さんと私なので、今、ガバナーデジグネートの立候補者がいないので、できれば上村さんもガバナーをやっていただけたら有り難いと思います。

RI会長エレクトでしたブラジルのマリオさんが6月に突然辞任されました。理由は正式には公開されていないのですが、自己都合ということになっています。6月14日に指名委員会でイタリアのフランチェスコ・アレツォさんが25-26年度のRI会長に決まりました。

アレツォさんは矯正歯科医で歯科診療所を持って国際的にも活躍されています。

ひとつのポイントは、会長テーマが今年度から会長メッセージに変わった点です。会長メッセージというのはRIのコミュニケーション委員会と戦略計画委員会とその時の会長エレクトが理事会に提案して承認されるという段階を踏まなければなりません。

2025-26年度会長メッセージは「よいことのために手を取りあおう」になったわけなのですが、行動計画を軸とした複数年に渡るメッセージになります。

マリオさんがやめて、アレツォさんが会長エレクトになっても、同じメッセージだったというのは、ある意味では助かったということになります。

私は今年の2月に国際協議会に出て、マリオRI会長エレクトが「よいことのために手を取りあおう」と話されたのを、私は三大セミナーで説明したのですが、マリオさんの考え方とアレツォさんの考え方のふたつをお話することになると思います。

マリオさんが話されたのは、「よいことのために手を取りあおう」を実現するためには会員増強と活性化が必要であり、そのためには革新、継続、パートナーシップの3つの重点項目があるということでした。

2000年以降、社会はIT社会になり、社会の変化が大きい。それに対してロータリーの文化は変わっておらず、今の社会に合っていない活動をしているから会員増強もできないのではないか、ロータリーの文化を変えていこう、とRIは言っていました。

例えば若い人はもちろんですが、65歳を過ぎた方も目標が同じであれば取り入れていかな

ければならないと話されていました。

継続というのは健全な地域、クラブにおいては強固なリーダーシップが必要になり、それは3-year Rolling Goalsにもつながります。

パートナーシップについては、ポリオ根絶運動を例に話されていました。ポリオ根絶はロータリーの優先項目になります。ロータリーだけでは成し遂げられないので、WHOやユニセフやビル・ゲイツ財団の協力なしではここまで感染者を少なくすることはできませんでした。

もともと「UNITE FOR GOOD (よいことのために手を取りあおう)」という英語のメッセージは、分断されている世界において、結束する力となるようロータリー会員に呼びかけるものです。

今はマリオさんの話しだったのですが、ここからアレツォさんの話についてお話しします。

7月1日にメールでアレツォさんからメッセージが来ました。

「よいことのために手を取りあおう」を実現するためには友情と信頼が大事だと書かれていました。ロータリアンひとりひとりの内面を変えていかなければいけないとアレツォさんはおっしゃっています。

強いクラブは友情と信頼によって築かれています。友情と信頼のもとに有意義なパートナーシップを築き、世界的な問題を解決へと導きます。肩書きや賞賛ではなく、謙虚さ、人間性、思いやりをもってリーダーシップを発揮します、とアレツォさんは書いています。

アレツォさんはR I戦略計画のビジョンとして、「私たちは世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。肝心なのは「自分自身の中で」という部分です。変革はひとりひとりの人格やお互いの接し方から始まるからです」と言っています。

マリオさんはどちらかという組織について、アレツォさんは会員ひとりひとりについて心の中から変えていかなければならないとおっしゃっていると私は受け止めています。

ビジョン声明について知ってもらうために動画があるので、ちょっと見ていただきます。

(ロータリーの行動計画、ビジョン声明の中の4つの優先事項についての、R IのPR用動画を視聴)

この中で言っていたのは、より大きなインパクトをもたらすということと、参加者の基盤を広げる、参加者の積極的なかわりを促す、適応力を高める、ということです。

なぜ3-year Rolling Goals、目標設定が大事かということ、R Iはリーダーシップを高めることに重点を置いているからです。

ロータリーは何が大事かという所をもう一度考える必要があると私は常々思っています。

マイロータリーにラーニングという項目があり、ロータリーの基礎知識としてロータリーは、「私たちは問題を解決し、機会を創り出し、変化をもたらす」と書いてあります。これが今のR



Iのロータリー観です。今の社会においては、ある意味これが正しいのではないかと思います。

私が1998年に入会した時は、ロータリーとは自分自身の修養の場であり、品位ある上質な思想を涵養し、己の人生、事業の展開に上質な思想を移入することがロータリーの奉仕であり、職業奉仕だということを教えられました。

が、2000年以降、社会が大きく変わり、そんな中でロータリーが変わっていないということがRIがロータリーの変革を求めている理由だと思います。

では私達はどうしたらいいのかといえば、間違いなく、ロータリーの目的を達成すればいいのだと思っています。

ロータリーの目的はRI定款第3条、標準RC定款第5条に書いてある通り、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励しこれを育むことにあります。

具体的には、

1. クラブ奉仕
2. 職業奉仕
3. 社会奉仕
4. 国際奉仕

と言われており、キーワードは奉仕の理念ということです。

奉仕の理念を育むというのはどういうことかということ、ひとつは社会奉仕に関する1923年の声明に書かれている、23-34と言われているもので、「ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。この哲学は奉仕—『超我の奉仕』—の哲学であり、これは、『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』という実践的な倫理原則に基づくものである」と書かれています。

これを捕捉する文章として、1935年にポールハリスが書いた「THIS ROTARIAN AGE」の中に、「物の過程の最初に奉仕を置くものである。換言すれば奉仕の理想を標榜する者は受けるべき物質においてではなく、まず与えるべき奉仕に着眼すべきである」と奉仕の理想の意味の記述があります。



一番、奉仕の理念の適切な言葉として、RIの『公式名簿』(Official Directory) 巻末にチェスリー・ペリーが「全世界のロータリークラブは一つの基本理念—『奉仕の理念』を持っている。それは他人のことを思いやり、他人の助けになることである」と書いています。これは「奉仕の理念」の意味を示した唯一の記述とされています。

奉仕の理念を育むこととは、ロータリアン1人1人が職業を通し、また日常生活において、高い倫理観を持って、「人に思いやりを持ち、人の役に立つことを実践すること」である。

日々学び、自己研鑽していくことが「人生哲学」につながるものと考えます。

奉仕の理念を育みながらロータリーを楽しむ為にはどうしたらいいかと言いますと、佐藤千寿さんの人造りロータリーからの引用で、皆さんもご存知のように、ポールハリスがロータリーを作った動機を聞かれ「ただ淋しかっただけだ」と答えたのは有名な話です。

人間は「人の間」と書かれるように、私があって貴方あり、貴方がある。ロータリーを楽しむためには先ず1人でも2人でも友達の輪を拡げることから始める必要があります。これは会員増強につながります。

1989-90年のアーチャーR I会長のテーマは『ロータリーを楽しもう』でした。彼は「見知らぬ他人の為に自分の時間と能力を捧げて、その人の生活を改善向上させてあげること、自分自身の方が人間的に大きく成長するのが分かります。他人の尊厳を保つこと、それは我々自身の尊厳を高めることになります」と言っています。

R I会長メッセージの「良い事の為に手を取り合おう」は行動計画を成功に導くメッセージでありクラブを成長させます。またロータリーの目的は「奉仕の理念を育む」ことであり自分自身を成長させます。

クラブを成長させる行動計画の実践と自分自身の成長させる奉仕の理念を育むことの、共通点は成長です。

そうすることで、私は今年度の地区スローガンを「GROW ROTARY 自分もクラブも成長しよう」としました。

私の年度の事業として「八犬伝プロジェクト」というものを行っています。

基本的には地区が指導的に奉仕を主導するということはありません。基本的にはクラブが主体をもって全て行動して行くわけですが、地区としてはクラブが活動しやすいように環境を作ることが大事だと思い、その環境のひとつとして「八犬伝プロジェクト」というものを企画して今、実施しています。

2790地区では25-26年度の行事として「南総里見八犬伝」による千葉(2790地区)の良さを見直すとともに、ロータリークラブが大切にする「道徳」と「南総里見八犬伝の八徳」を理解しグローバル社会で見失いそうな「日本独自の道徳」のあり方を、この機会に考えてみたいと思っています。

私たちの故郷、千葉。その千葉に残る「南総里見八犬伝」の物語を通じて残る様々な文化、歴史の遺産、名作に触れ、千葉のルーツを考える、ということなのですが、元々、柏ロータリーの寺嶋さんが宮田雅之さんの刀勢画(切り絵)を360点持っていらして、それを千葉県内の美術館で展示したいというのが発端でした。

館山城には八犬伝博物館というものが、滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」の原本や、NHKで放送された新八犬伝の人形劇の台本、原稿や人形、1980年台に朝日新聞の夕刊に掲載された山田風太郎の小説「八犬伝」の原稿等が置いてあります。

その山田風太郎の挿絵として使わ



れたのが宮田雅之さんの刀勢画360点で、今、展示してあります。

それを例えば、館山の小中学生にロータリーの地区補助金を使って無料で見てもらうようにしているところです。

あと、インターアクトもたまたま館山で会議があるので見てもらう形になっています。

なんでロータリーと八犬伝が結びつくかを調べてみたのですが、ひとつは新渡戸稲造の「武士道」という本がありまして、読んでみました。

この本はロータリーが出来た時期とほぼ同じ時期、1900年位に発刊されました。この中で、新渡戸稲造が尊敬する教授がいて、「アメリカでは道徳を聖書で教育しているが、日本ではどういう形で教えているんだ」と聞かれた時に答えられなかったそうです。それを新渡戸稲造が自分なりに調べてまとめたのが「武士道」という本になりました。

武士の正義感とかそういうものがどうやって市中まで広まったかという、江戸時代の滝沢馬琴の「南総里見八犬伝」という小説の中で武士道の気持ちが道徳心として広がり育まれていったと「武士道」には書かれています。

南総里見八犬伝は「仁義礼智忠信孝悌」の八徳の霊珠を持って活躍します。ポールハリスは「THIS ROTARIAN AGE」の中で「ロータリーは決して宗教でもなければその代用物でもない。それは古くより存在する一道德観念の現在生活に於ける、特に実業職業生活に於ける実践に他ならない」と書いており、八犬伝とロータリーの共通点は八徳と道徳の「徳」にあると思います。ということで、これはロータリーが推し進めていいプロジェクトである、と整理ができました。

茂木本家美術館、成田山書道美術館、千葉市美術館、鋸山美術館、菱川師宣記念館、館山城八犬伝博物館で展示をします。

公共イメージ向上と青少年社会学習の育成ということでプロジェクトを進めています。

もうひとつは10月26日に館山城でポリオ根絶のイベントを実施します。50基以上のランタンをあげてセレモニーをやり、ポストカードも作り地区大会で販売し、ポリオへ寄付をする計画もしています。

公共イメージ向上として、千葉日報には7月24日にカラー全面広告を出したり、NHKに取材してもらえるようにしたり、J:COMや読売新聞でロータリーはこんないいことをしている、と知ってもらえるようにしたいと思っています。

三大セミナーの時に流した八犬伝プロジェクトのPRのビデオがありますので、それを見ていただいで終わりたいと思います。

(「南総里見八犬伝プロジェクト」 国際ロータリー第2790地区の動画を視聴)

ご清聴ありがとうございました。

## 閉会の点鐘

柳田会長

本日は時田ガバナー、ありがとうございました。

例会を閉会いたします。



## ●本日のランチ



今週の表紙「山階鳥類研究所」千葉県我孫子市高野山115番地  
 日本で唯一の鳥類専門の研究所です。ヤンバルクイナの発見などで知られています。  
 創立者である山階芳麿が皇族出身であることから皇室との縁が深く、総裁に秋篠宮文仁親王殿下を迎え、紀宮清子内親王殿下が研究員として平成17年まで13年間お勤めになったことで有名な研究所です。

ロータリーの友事務局 ホームページ [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp) メールは [web@rotary-no-tomo.jp](mailto:web@rotary-no-tomo.jp)

環境NPOオフィス町内会が中心となって2005年に立ち上げた新たな間伐促進活動が「森の町内会」です。この活動に賛同して「印刷用紙」や「コピー用紙」を使用する企業は2009年9月現在、92社にのぼり、その環境貢献として促進される岩手県岩泉町・葛巻町・青森県三沢市での間伐は、年間30haの規模になっています。グリーン購入大賞で大賞を、山村カコンクールで林野庁長官賞を受賞しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。

我孫子ロータリークラブは、環境貢献として、「森の町内会」を応援します。